

1. 日本人でも優勝争いに絡めることを証明できたシカゴマラソン 2. シカゴの覇者・ファラー選手(左から2人目)は、ナイキ・オレゴン・プロジェクトに所属していた元チームメイト 3. 町田市こどもマラソン大会で優勝した小学4年生の大迫選手。トップを競いあった1歳年上の従兄弟と4. 昨年12月に行われたこどもマラソン大会ではビデオメッセージが流された 5. 昨年11月、相原町の法政大学多摩キャンパスで行われた10000mの記録会



大迫 傑(おおさくすぐる) 1991年5月23日、町田市生まれ、町田市立金井小学校、金井中学校出身。マラソン、3000m、5000m日本記録保持者。2013年モスクワ世界選手権10000mの下、プロランナーとして活動中。2016年リオ五輪には10000m、5000mで出場した



大迫 傑

特集 3

プロランナー

挑戦者として走る、ただ、それだけ。

東京オリンピックを1年後に控え、マラソン選手の代表を決めるMGC※が9月15日に開催される。そんな中、代表選手の最有力候補が昨秋のシカゴマラソンで日本新記録を叩き出した大迫傑選手だ。町田生まれ、町田育ちの彼はプロランナーとしてアメリカを拠点に日本で誰も歩んでいない道を突き進む。

代表にも選出される。大学卒業後は日清食品グループで2015年元旦のニューイヤー駅伝で1区区間賞。2015年3月よりナイキ・オレゴン・プロジェクト(アジア人史上初)に加入。現在もプロジェクト

「強い思いからだった。以来、世界屈指のトップランナーたちと最先端の環境で着実に進化を遂げてきた。初のフルマラソンは2017年のポストン。日本人として30年振りの表彰台となった3位。2時間10分28秒という成績は、陸上界だけでなく世間の注目度も一気に高めた。そして昨秋、3度目のマラソンとなるシカゴで2時間5分50秒でゴール、日本記録を樹立したのだ。「シカゴでは、練習でやってきたことが成果として100%出せたと思っています。ただ、環境は違っても僕自身は高校や大学の時と本質的に変わっていません。常に挑戦者として速く走りたい、それだけです。東京オリンピックも勿論目標の一つですが、目の前の大会に精一杯向かうなかで、たまたま東京オリンピックが来年ある、という感じですね。」決してブレることなく、強いメンタルで冷静に自身を俯瞰するのも彼のスタイルだ。「ランナーとしてのゴールは決めています。指導者もいないとは思いますが、別の可能性に出会えたら別な道を行くかも知れないし。」町田生まれ、町田育ちのオリンピックが挑むMGC、そして東京オリンピックは、町田市民の夢でもある。

初マラソンは小学校3年生の時に出場した町田市こどもマラソン大会だった。大迫少年は5位でゴール。優勝したのは1歳年上の従兄弟だった。悔しい思いを抱えリベンジした翌年は見事1位で走り抜く。しかし、その翌年、順位はまたもや逆転。従兄弟不在の6年生の時は圧倒的な速さで優勝。幼い頃から自他ともに認める負けず嫌いだつたと自身を振り返る。中学に入ると陸上部が休部状態だったため、自宅から電車を乗り継ぎ、八王子四中とクラブチームで練習を重ねた。野津田の陸上競技場に走りに行くこともあった。3年生の時、全日本中学選手権の3000mで3位になり、陸上の強豪・佐久長聖から声がかかる。高校時代は全国高校駅伝で2年連続区間賞を受賞、チームを優勝に導いた。早稲田大学ではルーキーとして出場した箱根駅伝の1区で区間賞、早稲田の駅伝三冠に貢献。その他、ユニバーシアードなどトラック競技でも数々の記録を塗り替えた。卒業後は日清食品グループを経て、アメリカのオレゴン州に拠点を置くナイキ・オレゴン・プロジェクトにアジア人として初加入。挑戦できる環境でさらに成長したいとい